

『シルクロード回想』講演 レジюме

2019、2、20

渡邊 晴雄

1、はじめに

- ・[シルクロード] は、リヒト・ホーフエンが“絹の通商路”のイメージから言った言葉。
- ・しかし東西文化の懸け橋として、物以外にも宗教、芸術を広める効果をもたらした。

2、自己紹介

- ・1990 年、日中青年研修協会（羽田元総理が会長）の理事に就任。
- ・1991 年より、小渕基金による“日中植林活動”に参加（7 年間）。
- ・多くの“中国の旅”を経験した。—— チベット、シャングリラ、九寨溝等。

3、シルクロードで活躍した人々

1)、玄奘三蔵

- ・中国仏教界の高僧で、27 才の時、求法の目的で、インドへ密出国。
- ・17 年後に膨大な経典、仏像等を西安へ持ち帰り、翻訳を行った。
- ・シルクロードの情報を集めた『大唐西域記』から『西遊記』が生まれた。

2)、井上 靖

- ・中国に関する著作を多く残した。『敦煌』、『天平の甍』、『シルクロード詩集』等。
- ・『敦煌』は中国の協力により、映画化された。
- ・シルクロードへの旅の回数は多かった。日中文化交流協会の会長を務めた。

3)、司馬遼太郎

- ・中国に関する作品を多く書いた。『空海の風景』、『項羽と劉邦』等。
- ・『街道をゆく』の取材等で、中国へは何度も旅をした。
- ・井上靖さんとの共著である『西域をゆく』は、役に立った名著である。

4)、平山郁夫

- ・広島での原爆被害による死の恐怖に悩まされながら、仏画の世界を見出した。
- ・シルクロードへは 100 回以上スケッチ旅行に出かけた。中国での信用は高い。
- ・薬師寺の『西域大壁画』は 30 年以上をかけて、無償で描いた。

5)、東山魁夷

- ・唐招提寺御影堂の障壁画を 10 年かけて完成させた。
- ・鑑真和上の故郷の中国風景を描くために、3 回中国を訪ね構想を練った。
- ・1977 年に、シルクロードを旅して、タクラマカン砂漠の絵を描いた。

6)、オーレル・スタイン

- ・ハンガリー生まれで、イギリス国籍の探検家。
- ・1907 年、敦煌莫高窟を訪ね、数千点の古文書を住持の王円録より安く買収。
- ・この敦煌文書は大英博物館へ送られた。

7)、ポール・ペリオ

- ・1908 年に敦煌へ来て、洞窟内で調査し、数千点の文献をフランスへ送った。
- ・ペリオは中国語が得意だったので、価値の高い物を選び出して購入した。
- ・これが、世界的に『敦煌学』が起こるきっかけとなった。



敦煌、莫高窟
飛天

8) 大谷光瑞

- ・ ロンドン留学中、スタイン等の探検成果に刺激され、仏教東漸の遺跡調査を決意。
- ・ 西本願寺第 22 世宗主になり、大谷探検隊を組織し、3 次にわたる調査を行った。
- ・ [李柏文書] 発見等の成果は有ったが、1914 年宗主を辞任し、収集品は売却された。

9)、ウオーナー

- ・ アメリカ人で戦時中、奈良、京都の文化財を爆撃しないよう政府に進言した。
- ・ 320 窟の壁画 26 面を剥ぎ取って持ち帰った。
- ・ 中国では悪辣な文化の破壊・略奪者として批判されている。

4、シルクロードの旅

1)、北京

- ・ 人民大会堂で全青連の人達と会食。
- ・ ウルムチ行の飛行機は、黄砂の為 5 時間遅れた。

2)、ウルムチ

- ・ 博物館で、3,800 年前のミイラ【楼蘭の美女】を見学。

3)、トルファン

- ・ 高昌古城、交河古城、火焰山、カレーズ等を観光

4)、敦煌

- ・ 鳴沙山の月牙泉付近をラクダで周遊。
- ・ 莫高窟は砂漠の美術館。素晴らしい美術品を観られた。

5)、西安

- ・ 兵馬俑坑、大雁塔、華清池を巡る。

6)、奈良

- ・ 一昨年、唐招提寺、薬師寺を訪ねた。

5、シルクロードの変貌 (一带一路)

- ・ シルクロード内陸部は、船による大量輸送が可能な海側地域より発展が遅れた。
- ・ 一带一路は、シルクロード経済ベルトと 21 世紀海上シルクロードを合わせた構想。
- ・ 鉄道運賃は船賃の約 2 倍になるが、必要日数は約 1/3 に短縮されるメリットがある。
- ・ 【中欧班列＝鉄のラクダ】(中国と欧州を結ぶ国際定期貨物鉄道網) が注目されている。
- ・ 中国は【アジアインフラ投資銀行】や【シルクロード基金】の活用を勧めている。

6、日中関係について思う事

- ・ 日本と中国は一衣帯水の関係であるのに、日中平和条約締結時の考え方から大きく外れ、日本は外交不在のような様相を呈している。
- ・ イージス・アショアとか準空母の構想とか、戦争の危険性が増してきたよう感ずる。安全保障で軍備拡張を競うやり方では、平和を維持できない。
- ・ 戦争を経験していない人々が危険思想に走り、国を亡ぼす事がないよう願っている。
- ・ 日中友好の考え方は重要で、民間ベースの“草の根運動”が益々重要になっている。

以上